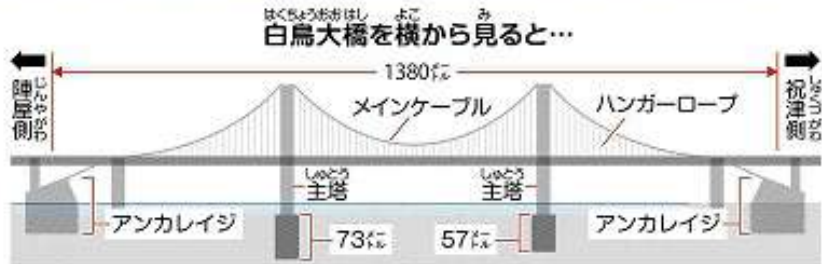


室蘭港の南北をつ
なく白鳥大橋



白鳥大橋 丈夫な秘密は？

アンカレイジの内部を探検することも記者。左上には、メインケーブルの根元へと続く52本のストランドが見えます



室蘭港をまたぐ東日本最大のつり橋、白鳥大橋が6月、開通から25周年をむかえました。港のために行き来が不自由だった町が結ばれて便利になり、長年多くの車が走ってきました。厳しい冬の寒さにも負けない丈夫なつり橋で、人々の営みを支えています。2人のことも記者が橋の内部に潜入し、丈夫さの秘密を探りました。

(室蘭報道部 高木乃梨子)

室蘭のつり橋 開通25周年

2人は室蘭市・蘭北小5年の北見笑都さん、胆振管内洞爺湖町・虻田小6年の加賀谷裕さん。案内は、白鳥大橋を管理する開発局・室蘭開発建設部の職員、井内彰宏さんです。最初に白鳥大橋記念館(道庁)を訪ねた。室蘭の絵柄半島は、港を大きく支えています。白鳥大橋の先は祝津町と、海をへだてた向かいの陸屋町を結ぶ白鳥大橋は全長1.380m。さっぽろテレビ塔ほどの高さの2本の主塔とケーブルでつらわれています。

巨大な橋を支えるには、丈夫な主塔が必要です。井内さんは「海底を73mの深さまで掘ってコンクリートで基礎(土台)を造り、

主塔の土台73m ケーブルはピアノ線6千本

丈夫な主塔とケーブルを支えられた橋。一体、どれぐらいの車が乗れるのでしょうか。井内さんによると、ゆれは震度7、風は秒速67m/sまでたえられる構造です。車なら、10mのタンクカーが橋をうめつくしても落ちないそうです。

井内さんは「特別な加工をして、さびないようにしています。半永久的にもちますよ。ケーブル全体にワイヤを巻き付け、水を防いでいるのです。」



加賀谷裕さん



北見笑都さん

「橋が道の途中から始まっているように見える」と加賀谷さんが言いました。「するどいですね」と井内さん。橋の上の自動車専用道路と、ケーブルのスタート地点がちがうようです。ケーブルはどこから出ているのでしょうか。一行は、橋のたもとにあるコンクリートのかたまり「アンカレイジ」に向かいました。高さは地下部分を合わせて約50m、重さ15万t。「大きいね。これも記者は上を向いておどろいています。アンカレイジの中に入りました。ケーブルがさびないように空調が効いています。階段を登ると、ケーブルの根元がありました。アンカレイジが重りとなっていて、ケーブルを留めているのです。ケーブルの太さは直径48cm。2人は間近で見たりさわったりして、丈夫さを実感していました。最後に、白鳥大橋専用の除雪車「エアリンク車」に試乗しました。街中を走る除雪車とはちがうようです。運転手さんがスイッチを入れると、車から「ゴオ」と強風が出ました。橋に積もった雪が固まって落ちると、下を通る船に当たる危険があります。そのため、強風で雪を粉々にして吹き飛ばすそうです。加賀谷さんは「橋の仕組みがよく分かって面白かった」と話していました。